

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年8月3日

**【四半期会計期間】** 第86期第1四半期(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

**【会社名】** 塩水港精糖株式会社

**【英訳名】** Ensuike Sugar Refining Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山下 裕 司

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249-2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理グループ長 小 田 俊 一

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号

**【電話番号】** 東京(03)3249-2381(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理グループ長 小 田 俊 一

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第85期 第1四半期 連結累計期間	第86期 第1四半期 連結累計期間	第85期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	6,885	6,800	26,874
経常利益 (百万円)	366	579	1,192
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	288	453	906
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	315	395	821
純資産額 (百万円)	7,800	8,566	8,306
総資産額 (百万円)	25,066	25,105	24,948
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	10.66	16.72	33.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.1	34.1	33.3

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の持ち直しや政府の各種政策の効果により企業収益や雇用・所得環境が改善するなど、総じて緩やかな回復基調で推移いたしました。今後は、輸出や設備投資が底堅く推移すると見込まれる一方、米国の保護主義的な政策による中国他諸地域との貿易摩擦懸念や原油価格の上昇など、景気の先行きには不透明感が存在しております。

このような状況の中、当社グループはお客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」を目標に、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において12.33セントで始まった後、主要生産国インドでの砂糖生産量の増加観測及びブラジル通貨レアルの対米ドルでの安値傾向の進行により相場が下落し、4月下旬には約2年半ぶりの安値である10.69セントを付けました。その後は主要生産国ブラジルにおいて、乾燥気候の長期化による産糖量の停滞観測等により相場は上昇傾向となり、6月初旬には12.97セントの高値を付けました。その後は12セントを挟んで推移し、11.86セントで当期を終了しました。このような相場動向のもとで、当社では適切な原料糖の調達に努めてまいりました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり）は、期初189円～190円で始まり、同水準のまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類などの国内販売は、業務用製品は主に飲料向けが伸長したことから大手ユーザーを中心として好調に実績を確保し、家庭用製品も回復傾向で推移いたしました。この結果、販売数量は前年を上回りましたが、販売単価が前年と比較して下落したことから売上高は前年を下回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は6,317百万円（前年同期比1.3%減）、セグメント利益は553百万円（前年同期比34.5%増）となりました。

#### バイオ事業

オリゴ糖部門は、腸内環境改善効果を有する特定保健用食品「オリゴのおかげ」シリーズの拡販と認知度向上を目指し、主要な販売先及び量販店を中心とした販売促進活動の強化に努めるとともに、各種メディアを通じた一般消費者への訴求活動及び当社公式ウェブサイトにおける内容の充実化を図りました。この結果、一部アイテムでは前年以上の実績を維持いたしました。しかし、オリゴ糖部門全体では販売数量及び売上高とも前年同期を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、食品及び非食品において新規用途の開発と営業力の強化を通じた拡販に努めた結果、販売数量は前年を下回りましたが売上高は前年を上回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は481百万円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は91百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

#### その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は32百万円（前年同期比0.6%増）、セグメント利益は15百万円（前年同期比4.1%減）となりました。

以上の結果、当期の売上高は6,800百万円（前年同期比1.2%減）、営業利益は367百万円（前年同期比81.7%増）、経常利益は579百万円（前年同期比58.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は453百万円（前年同期比56.9%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対応すべき課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、25百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月3日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,000,000	35,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式単元株式数は100株
計	35,000,000	35,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日		35,000		1,750		345

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,890,600		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,104,400	271,044	同上
単元未満株式	普通株式 5,000		同上
発行済株式総数	35,000,000		
総株主の議決権		271,044	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 塩水港精糖株式会社	東京都中央区日本橋 堀留町2丁目9-6	7,890,600		7,890,600	22.54
計		7,890,600		7,890,600	22.54

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第85期連結会計年度 新日本有限責任監査法人

第86期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 監査法人日本橋事務所

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,784	1,259
受取手形及び売掛金	2,035	2,134
商品及び製品	1,084	1,195
仕掛品	271	195
原材料及び貯蔵品	713	1,239
その他	1,043	1,098
<b>流動資産合計</b>	<b>6,932</b>	<b>7,122</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	9,975	9,983
減価償却累計額	6,393	6,458
建物及び構築物（純額）	3,582	3,525
機械装置及び運搬具	11,283	11,302
減価償却累計額	9,480	9,556
機械装置及び運搬具（純額）	1,803	1,745
工具、器具及び備品	460	462
減価償却累計額	387	391
工具、器具及び備品（純額）	72	71
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	23	21
<b>有形固定資産合計</b>	<b>10,715</b>	<b>10,597</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	124	120
その他	6	6
<b>無形固定資産合計</b>	<b>130</b>	<b>126</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	5,107	5,184
長期貸付金	1,224	1,233
繰延税金資産	753	759
その他	84	81
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>7,170</b>	<b>7,259</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>18,016</b>	<b>17,983</b>
<b>資産合計</b>	<b>24,948</b>	<b>25,105</b>



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	689	941
短期借入金	5,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	1,588	1,653
未払法人税等	177	97
未払消費税等	176	201
賞与引当金	78	39
その他	1,061	1,202
流動負債合計	8,772	9,135
固定負債		
長期借入金	6,820	6,375
退職給付に係る負債	716	692
繰延税金負債	8	18
その他	324	318
固定負債合計	7,869	7,404
負債合計	16,642	16,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	9,687	10,004
自己株式	3,021	3,021
株主資本合計	8,657	8,974
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	361	420
繰延ヘッジ損益	4	4
退職給付に係る調整累計額	15	15
その他の包括利益累計額合計	350	408
純資産合計	8,306	8,566
負債純資産合計	24,948	25,105

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	6,885	6,800
売上原価	5,666	5,458
売上総利益	1,218	1,342
販売費及び一般管理費	1,016	974
営業利益	202	367
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	59	58
持分法による投資利益	122	169
その他	3	4
営業外収益合計	192	239
営業外費用		
支払利息	25	24
支払手数料	1	1
その他	1	1
営業外費用合計	28	27
経常利益	366	579
特別利益		
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
税金等調整前四半期純利益	366	579
法人税、住民税及び事業税	55	95
法人税等調整額	21	29
法人税等合計	77	125
四半期純利益	288	453
親会社株主に帰属する四半期純利益	288	453

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	288	453
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	59
繰延ヘッジ損益	2	0
退職給付に係る調整額	2	0
持分法適用会社に対する持分相当額	2	1
その他の包括利益合計	26	58
四半期包括利益	315	395
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	315	395

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
太平洋製糖(株)	437百万円	太平洋製糖(株)	425百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	159百万円	165百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	135	5.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,396	460	27	6,885	-	6,885
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	20	4	29	29	-
計	6,401	480	32	6,915	29	6,885
セグメント利益	411	83	16	511	309	202

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,312	459	28	6,800	-	6,800
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	21	4	31	31	-
計	6,317	481	32	6,831	31	6,800
セグメント利益	553	91	15	659	292	367

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円66銭	16円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	288	453
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	288	453
普通株式の期中平均株式数(株)	27,109,396	27,109,354

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8 月 3 日

塩水港精糖株式会社  
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	小 倉	明 印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	吉 岡	智 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩水港精糖株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、塩水港精糖株式会社及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### その他の事項

会社の平成30年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成29年8月4日付で無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成30年6月27日付で無限定適正意見を表明している。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。